

健康について

九州・沖縄の熱中症、感染症の特徴

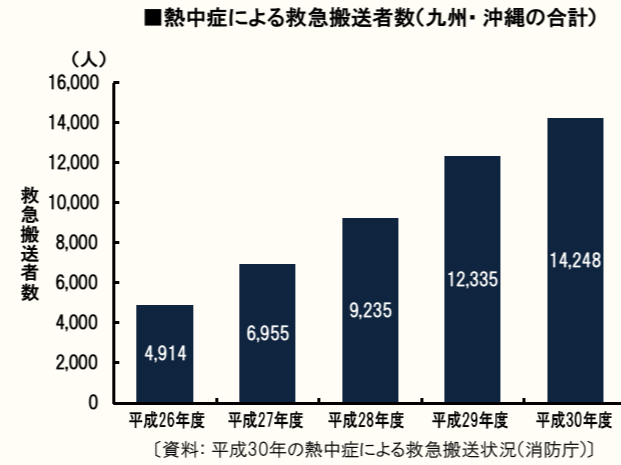
- 熱中症による救急搬送者数は、平成27年度以降増加しています。
- 九州・沖縄は、地理的に蚊が媒介する感染症であるデング熱の流行地の台湾に近い地域です。

温暖化の影響

- 21世紀末には熱ストレスによる死亡リスクが高まり、熱中症による救急搬送者数も約3倍に増加します。
- 21世紀末には九州地域の一部や沖縄地域がデング熱を媒介するネッタイシマカの生息可能域になるため、感染症のリスクが高くなります。

九州・沖縄で取り組まれている適応策の例

- 熱中症対策方針に基づき、関係部局が連携して予防・対処法の普及啓発等の熱中症対策を推進しています。【福岡市】
- 海外から入港する船舶及び航空機により感染症を媒介する、ねずみ及び蚊等の国内侵入及び蔓延を防止するため、定期的な調査を実施しています。【福岡検疫所】【那覇検疫所】



ネッタイシマカ
(写真提供：長崎大学川田均博士)

地球温暖化による

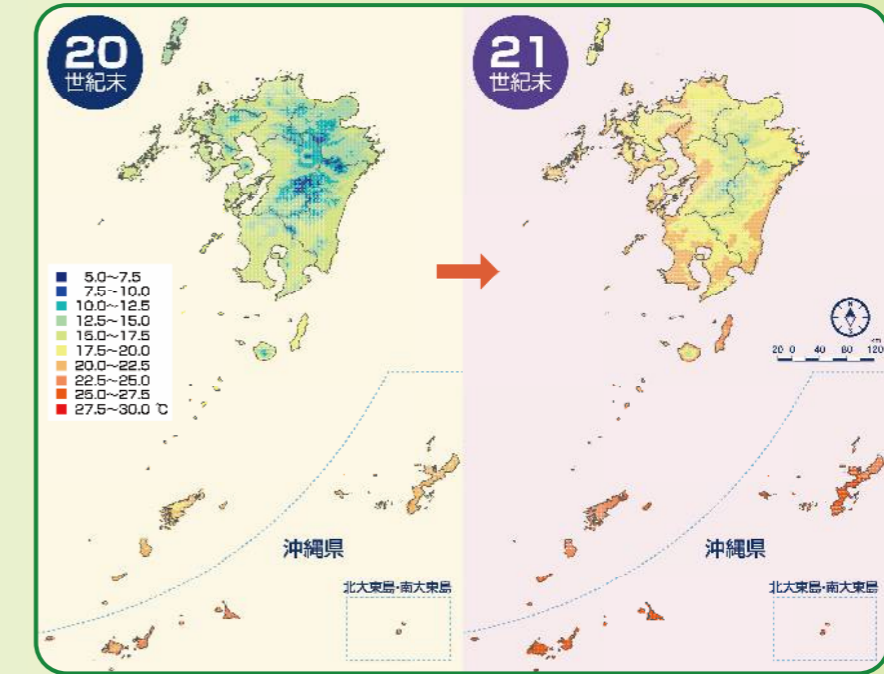
九州・沖縄地方への影響を知り、適応を進めるために【平成30年度版】

気候変動の影響は既に現れており、今後さらに深刻化するおそれがあります。そこで、長期的な温室効果ガスの排出削減とともに、気候変動への適応の取組が求められています。

九州・沖縄地方の地球温暖化の進行状況、将来の気候予測

最近100年間で、年平均気温は、九州・山口県で約1.68℃、沖縄で1.08℃上昇しています。現状以上の温暖化対策(緩和策)を採らなかった場合は、21世紀末は20世紀末と比べて、九州・沖縄平均で約4.2℃上昇することが予測されます。また、年降水量も増加することが予測されています。

〔出典：九州・山口県の気候変動監視レポート2014(福岡管区気象台)、沖縄の気候変動監視レポート2015(沖縄気象台)、S-8 温暖化影響・適応研究プロジェクトチーム 2014年報告書(シナリオ：RCP8.5、気候モデル：MIROC5の場合)〕



※影響評価図は、「S-8 温暖化影響・適応研究プロジェクトチーム2014年報告書」(シナリオ：RCP8.5、気候モデル：MIROC5の場合)

平成30年12月に気候変動適応法が施行されました。国、地方公共団体、事業者、国民はそれぞれの立場で、また、協力して適応に取り組む必要があります。

●気候変動影響への適応とは

気候変動影響による被害の防止・軽減その他生活の安定、社会や経済の健全な発展又は、自然環境の保全を図ることです。適応策は、新たな取組を行うことではありません。国・地方公共団体の各種計画の中には、適応の観点が含まれているものがあり、適応策に分類できる施策・事業は、既に実施されています。これらを適応策として整理し、地域の特性に合わせて再編することは、持続可能な地域づくりの観点からも重要なことです。

産業・経済活動、国民生活・都市生活について

温暖化の影響

- 産業・経済活動
平均気温の上昇や極端な気象の頻度・強度の増加は、産業・経済活動に影響を及ぼすことが想定されます。
- 国民生活・都市生活
気候変動による短時間強雨や湯水の頻度、強い台風の増加等が進めば、インフラ・ライフライン等への被害、快適性の損失など都市生活に大きな影響を及ぼすことが想定されます。

九州・沖縄で取り組まれている適応策の例

- 災害時に利用可能な民間物資拠点のリストアップや、都道府県と物流事業者団体との間の輸送・保管・専門家に関する協力協定の締結を促進しています。【九州運輸局】
- 災害時の緊急輸送を確保するため、緊急輸送道路等の整備を進めるとともに、リダンダンシーの向上、高速交通ネットワークの構築を推進しています。【鹿児島県】

地球温暖化の影響のリスク評価を行った上で、社会全体や各分野の適応能力を向上する必要があります。将来計画を立てる際に、地球温暖化の影響を考慮することで、投資の重複を避けることができるなど長期的にはコストの削減にもつながります。

地球温暖化による九州・沖縄地方への影響を知り、適応を進めるために【平成30年度版】平成31年3月

発行 環境省 九州地方環境事務所 〒860-0047 熊本県熊本市西区春日2-10-1 熊本地方合同庁舎 B棟4階 TEL: 096-322-2411

編集 一般財団法人九州環境管理協会

農業・林業・水産業について

九州・沖縄の農業・林業・水産業の特徴

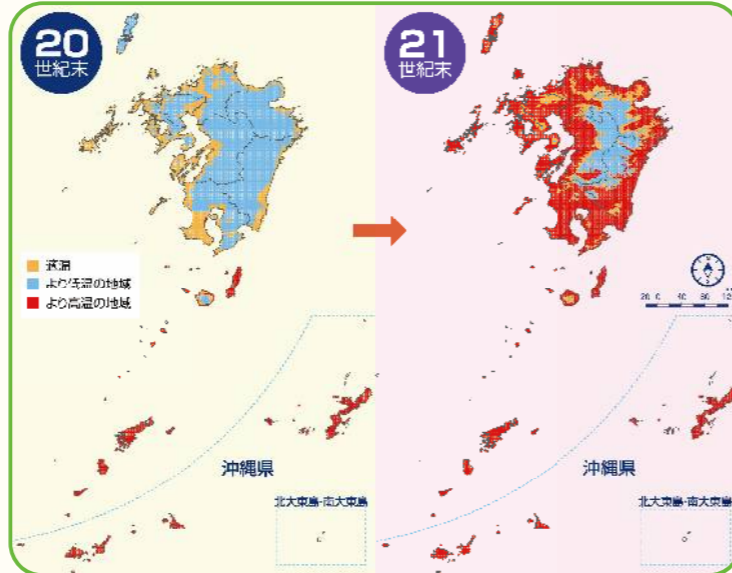
- 全国の2割の農業産出額(平成28年)を占める農業の拠点です。
- 畜産(ブロイラー、肉用牛、豚)のシェアが特に高く、野菜や果樹、水稻の生産も盛んです。

温暖化の影響

- 農作物への影響としては、気温が上昇することで、品質や収量の低下に加え、栽培可能地域に変化が生じます。例えば、21世紀末にはみかんの栽培に適した地域が減少する一方で、タンカンの栽培に適した地域が増加します。
- 畜産への影響としては、暑さで家畜や家きんなどのへい死や、生乳の品質が低下しています。
- 水産業への影響としては、海水温の上昇による漁業、養殖業への被害が発生しています。

九州・沖縄で取り組まれている適応策の例

- 温暖化に対応した高温耐性のある水稻の品種(多収・耐病性水稻品種)の育成・普及を行っています。
【福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県】



うんしゅうみかん栽培適地の将来変化



水環境・水資源について

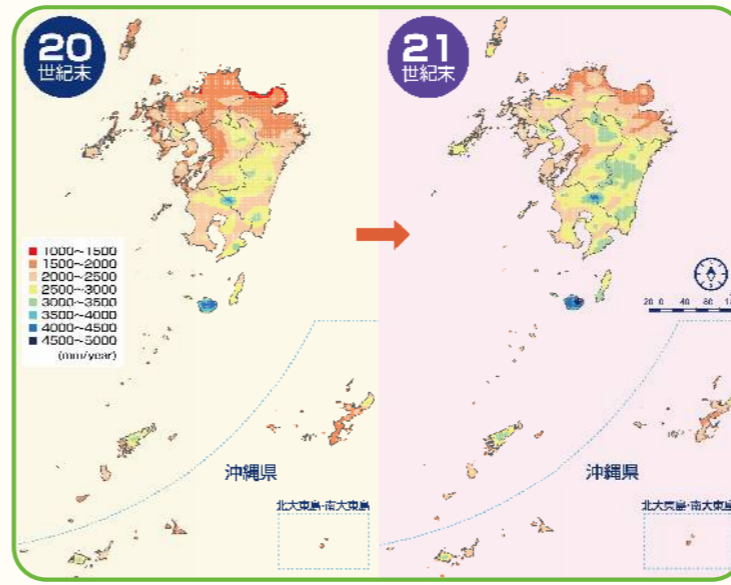
九州・沖縄の水環境・水資源の特徴

- 地下水や河川水など豊富な水資源がある地域と、水源が乏しいため海水を淡水化して利用する地域があります。
- 有明海、八代海等の閉鎖性海域は、物質循環・水循環の停滞がみられ、水質や底質の改善が課題となっています。



温暖化の影響

- 21世紀末には九州・沖縄地方平均で降水量が約1.12倍に増加することが予測されます。
- 降雨パターンが変化することにより、渇水の高まる地域もあります。



年降水量の将来変化

九州・沖縄で取り組まれている適応策の例

- 県内の離島において、地震等の災害や基幹水道施設の事故発生による給水停止、また渇水により発生する給水制限への対応に備え、可搬型海水淡水化装置を導入しています。【沖縄県】

自然生態系について

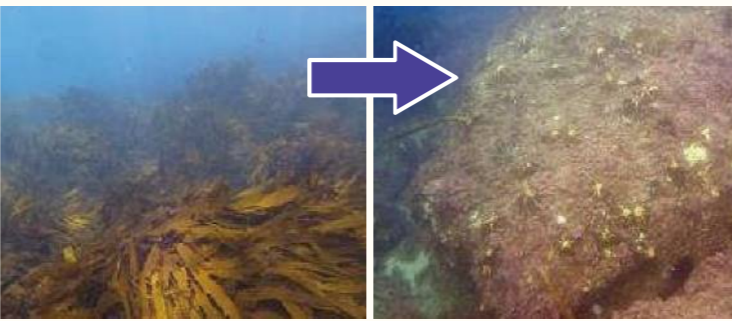
九州・沖縄の自然生態系の特徴

- 「阿蘇くじゅう」など10の国立公園を有しています。
- 豊かな自然環境と優れた自然生態系が見られます。



温暖化の影響

- 気温上昇によって動植物の生息・生育環境が変わり、分布の状況が変化します。
- 海水温の上昇や、大雨に起因する赤土の流出などにより、サンゴの白化現象が発生しています。また、藻場の消失による沿岸海域の生態系への影響が懸念されています。



九州・沖縄で取り組まれている適応策の例

- 多自然川づくりの中で必要に応じて水生生物に配慮した護岸の整備を実施しています。
【九州地方整備局】



自然災害・沿岸域について

九州・沖縄の風水害の状況・国土の特徴

- 台風の上陸や接近数が多く、短時間に強く降る雨などにより、風水害、土砂災害が発生しています。
- 急峻な山地と急流河川が多く、急傾斜危険箇所は全国の2割以上が九州・沖縄に集中しています。



温暖化の影響

- 大雨や短時間強雨の発生頻度が増加します。
- 降水量の増加に伴い、斜面崩壊発生リスクや洪水被害のリスクが高まります。
- 台風の強度増大や海面上昇に伴い、高潮被害のリスクが高まります。

九州・沖縄で取り組まれている適応策の例

- 自主防災組織の避難訓練や啓発活動の活性化のために、市町村と連携して防災士を養成しています。【大分県】

